

言語文化研究科 指導計画

1. 研究科概要	<p>修士課程</p> <p>【言語文化コース】</p> <p>本コースでは、1) 多様な文化を理解し、日本語・日本文化と日本語教授法に関する高度な専門知識を有した日本語・日本語教育の専門家、2) 異文化コミュニケーション及び比較文化の視点から研究・教育を行うための知見を有し、多文化共生・異文化交流の現場に資する能力を備えた異文化コミュニケーションの専門家を育成します。それに加え、中国語中級レベル以上の院生や中国人留学生は高度な職業人に必要な日中通訳・翻訳力を身につけることもできます。</p> <p>【ビジネス日本語コース】</p> <p>本コースは留学生を対象とし、高度なビジネス日本語運用能力を習得できるカリキュラムのもと、グローバル社会で活躍できる高度職業人材を育成します。日本企業、日系企業においては、確かな知識やグローバルな視野と、日本語による高度なビジネス・コミュニケーション能力が必要とされています。本コースでは、実践的で高度なビジネス日本語運用能力と課題発見・解決能力、異文化調整力を強化します。</p> <p>本コースで取得できる学位は「修士（日本語）」です。日本語科目群、ビジネス科目群、ビジネス日本語ゼミ、特定課題研究演習を中心に、実践力と研究力を身に付けます。「BJT ビジネス日本語能力テスト」J1+も目指します。</p> <p>博士後期課程</p> <p>【言語文化専攻 博士後期課程】</p> <p>博士後期課程においては、学術の進歩に貢献することが可能な優れた研究を遂行できる研究者の育成を目指します。</p> <p>そのために、日本語学、日本語教育学、応用言語学、異文化コミュニケーション学、比較文化学など、様々な領域の学問に関する高度な専門知識を持ち、理論に基づいて学際的な研究を進めていける人材を養成するための指導を行います。</p> <p>先行研究を読み込み、その中から意味のある研究課題を設定し、その課題を解明するための研究方法を考えるという一連の作業を通して、博士の学位を授与するに値する研究を完遂できる能力を養います。</p> <p>グローバル化が進展する現代社会においては、異文化を背景に持つ人々とのコミュニケーションの重要性が高まっています。このような現状をふまえ、研究能力とともに、異文化コミュニケーション研究、第二言語習得研究、比較文化研究などの知見に基づく教育実践ができる能力を併せ持ち、グローバルに活躍できる研究者を養成します。</p>
2. 取得可能学位	<p>修士（異文化コミュニケーション学） Master of Arts in Intercultural Communication（～R3 年度入学生） 修士（日本語教育学） Master of Arts in Japanese Language Education（～R3 年度入学生まで） 修士（日本語） Master of Arts in Japanese Studies 修士（人文科学） Master of Arts in Humanities（R4 年度入学生～） 博士（文学） Doctor of Arts in Literature（～R3 年度入学生）</p>

3-1：修士課程

	審査種別：	修士論文
1 年次	4 月	年次の初めに指導教員（主査）を決定する。
	4 月中旬 ～5 月上旬	指導教員・題目届の提出（MUSCAT 通知） 学生→指導教員→学部事務課へ提出
	7 月下旬	2 年生の修士論文中間発表会に出席（言語文化コースのみ）
	1 月下旬	2 年生の修士論文（特定課題研究論文）公聴会に出席
	<p>【言語文化コース】</p> <p>入学時の志望に従って、主たる指導教員が決定されます。指示された所定の期日（5 月上旬）までに、その時点で考えている修士論文の題目を、指導教員を通じて学部事務課に提出してください。</p> <p>1 年生は必修科目「言語文化研究概論」「言語文化研究法（量的及び質的研究の演習）」のほかに、日本語教育分野、異文化コミュニケーション分野の科目群から所定の単位数を履修してください。1 年生は「研究指導」が必修となっているので、指導教員から通年で 14 回の指導を受けてください。研究指導のスケジュールは指導教員と学生が相談して決定します。研究課題の設定に当たり、必要があれば他の教員から助言を受けることも可能です。入学後に受講する授業を通して研究の興味が変わり、テーマを変更することもあると思います。それに伴い、指導教員変更の必要性が生じた場合は、早めに指導教員と相談し、その指示に従ってください。</p> <p>7 月下旬には 2 年生の中間発表会があります。2 年生の発表を、研究課題の設定や研究方法などの観点から批判的に検討し、自分の研究計画に役立ててください。</p> <p>1 月下旬には 2 年生の修士論文公聴会が行われます。公聴会での発表は質疑応答も含めて評価の対象となります。翌年は自分たちが発表することになりますので、発表をよく聞き、積極的に質問をして、翌年の発表の参考としてください。</p> <p>【ビジネス日本語コース】</p> <p>入学時に提出された研究計画書などを勘案の上、主たる指導教員が決定されます。指示された所定の期日（春生は 5 月上旬、秋生は 10 月上旬）までに、その時点で考えている特定課題研究論文の題目を、指導教員を通じて学部事務課に提出してください。</p> <p>1 年生は「ビジネス日本語ゼミ」が必修です。ここでの指導、研究を踏まえて、特定課題研究の準備をします。ビジネス日本語コースは春入学、秋入学があるため、公聴会が年に 2 回、7 月と 1 月に行われます。必ず参加し、2 年生の発表に対し、積極的に質問をしてください。</p>	
2 年次	4 月中旬 ～5 月上旬	指導教員・題目届の提出（MUSCAT 通知） 学生→指導教員→学部事務課へ提出
	7 月下旬	修士論文中間発表会（言語文化コースのみ）
	11 月	主査・副査の決定（研究科委員会）
	1 月中旬	修士論文・論文要旨・審査願の提出
	1 月下旬	修士論文の審査 最終試験（口頭試問・公聴会）

	3月	修了判定（研究科委員会）
	3月（修了式）	学位記交付
	<p>【言語文化コース】</p> <p>2年次は修士論文の作成に集中することになります。「修士論文演習」「修士論文」が2年次の必修科目です。研究指導のスケジュールは指導教員と相談して決定します。年度の初めに再度、指導教員・題目届を提出します。指導教員の変更がある場合は、この届によって正式に認められます。</p> <p>7月下旬に中間発表会が行われるので、それまでに研究計画を決定してください。中間発表会でのコメントを踏まえて、夏休み中にデータ収集など、研究が進められるようにしてください。なお、研究を進めるにあたり、人を対象とした研究の場合には、研究倫理審査会での承認が必要になるので、指導教員とよく相談して審査申請書も併せて準備してください。</p> <p>論文の提出は、1月中旬です。指定の書式で執筆した論文の製本2冊、論文要旨、審査願を指定された日に学部事務課に提出してください。</p> <p>主査と副査による口頭試問と公聴会が最終審査となります。質疑応答も含めて審査されますので、十分に準備して臨んでください。3月に行われる修了判定をもって、正式に修了が認められます。</p> <p>なお、院生の研究活動を支援するため、学会発表補助規程が制定されています。年1回、国内外を問わず、学会発表にかかわる費用（参加費、交通費、宿泊費など）の補助が受けられます。補助には上限がありますが、有効に活用してください。詳細は指導教員に確認してください。</p> <p>【ビジネス日本語コース】</p> <p>2年次は「特定課題研究演習」において研究指導を受けます。年度の初めに（春生は5月上旬、秋生は10月上旬）再度、指導教員・題目届を提出します。</p> <p>ビジネス日本語コースはコースとしての中間発表会は行わず、各ゼミ内で行います。</p> <p>中間発表会でのコメントを踏まえて、長期の休み中にデータ収集など、研究が進められるようにしてください。なお、研究を進めるにあたり、人を対象とした研究の場合には、研究倫理審査会での承認が必要になるので、指導教員とよく相談して審査申請書も併せて準備してください。</p> <p>論文の提出は、春生は1月中旬、秋生は7月中旬です。指定の書式で執筆した論文の製本1冊、論文要旨、審査願を指定された日に学部事務課に提出してください。</p> <p>公聴会が最終審査となります。質疑応答も含めて審査されますので、十分に準備して臨んでください。春生は2月、秋生は8月に行われる修了判定をもって、正式に修了が認められます。</p>	

3-2：博士課程

	審査種別：	博士論文
1、2年次	4月（入学）	指導教員の確認（出願時に希望した指導教員）
	4月中旬 ～5月上旬	博士後期課程指導教員・研究課題及び研究計画書の提出（MUSCAT通知） 学生→指導教員→学部事務課へ提出
	1月下旬 ～2月上旬	研究成果発表会
	1年次	

	<p>指定の期日（4月中旬～5月上旬）までに「博士後期課程指導教員・研究課題及び研究計画書」が提出できるように、指導教員から指導を受けます。</p> <p>1年次の必修単位は、2科目8単位と「特定研究（研究指導）1」4単位です。それらの科目の中で先行研究のレビューや研究の方法論の検討を通して、追究する価値のある博士論文計画を立案します。</p> <p>研究発表、論文投稿の計画を立てて、研究会、学会等で積極的に研究成果を発表してください。研究発表や論文投稿に当たっては、指導教員から十分に指導を受けてください。</p> <p>なお、院生の研究活動を支援するため、学会発表補助規程が制定されています。年1回、国内外を問わず、学会発表にかかわる費用（参加費、交通費、宿泊費など）の補助が受けられます。補助には上限がありますが、有効に活用してください。詳細は指導教員に確認してください。</p> <p>1年次の最後（1月下旬～2月上旬）に研究成果を発表すると同時に、研究成果報告書を言語文化研究科に提出してください。これをもって「特定研究（研究指導）」の単位が認められます。</p> <p>2年次</p> <p>指定の期日（4月中旬～5月上旬）までに「博士後期課程指導教員・研究課題及び研究計画書」を再度提出します。</p> <p>2年次の必修科目は、指導教員の「言語文化研究」と「特定研究（研究指導）2」です。研究指導は基本的に1年次と同様に進めます。本研究科においては修了の要件として投稿論文3本の出版が求められますので、積極的に研究論文を投稿してください。</p> <p>2年次の最後（1月下旬～2月上旬）に研究成果の発表と研究成果報告書の提出が必要です。</p>	
<p>3年次 (博士論文提出年次)</p>	<p>4月中旬 ～5月上旬</p>	<p>博士論文提出予定の届出（MUSCAT 通知）</p>
	<p>8月</p>	<p>博士論文提出案内 様式・提出日時等（MUSCAT 通知）</p>
	<p>10月</p>	<p>博士論文の提出 主査・副査の決定（研究科委員会）</p>
	<p>12月 ～2月下旬</p>	<p>博士論文の最終試験 公聴会</p>
	<p>3月</p>	<p>修了判定（研究科委員会）</p>
	<p>3月（修了式）</p>	<p>学位記交付</p>
	<p>博士論文を提出する年次には、4月から5月上旬の間に、博士論文提出予定の届出をします。博士論文の提出日時等の通知に従って、準備を進めてください。提出は10月になります。それ以降に論文の審査、論文の修正を行い、最終試験を経て公聴会での発表となります。</p> <p>3月に行われる修了判定をもって、正式に修了が認められます。</p>	